

第4回JATAの道プロジェクト実施

岩手県田野畑村で過去最多の77人が参加

JATAは10月27日と28日の両日、岩手県下閉伊郡田野畑村を中心とする太平洋沿岸地域で、東北復興支援事業である「JATAの道プロジェクト」を実施しました。2014年度にスタートした同プロジェクトは、観光による交流を通じて地域の魅力を高め、地域経済の振興を目指す取り組みです。2020年度までの7カ年度にわたって続けられる予定の活動には、4回目を迎えた今年、過去最多の77人が参加しています。



田野畑村の石原弘村長（右）JATAの坂巻伸昭副会長

〈体験ウォーキング〉 みちのく潮風トレイル

同プロジェクト初日には、「みちのく潮風トレイル」体験ウォーキングが実施され、海

「JATAの道プロジェクト」は、環境省が復興のシンボルとして三陸復興国立公園内で整備している全長約700キロに及ぶ「みちのく潮風トレイル」を活用し、JATA A会員各社が主体的に実地踏査などに取り組み機会であり、今回は、同トレイルのうち岩手県普代村南部から田野畑村までのルートでの体験ウォーキングを中心に、周辺地域の視察を行う形となりました。

77人が参加した同プロジェクトには、JATA国内旅行推進委員会の委員長を務める坂巻伸昭JATA副会長をはじめ、JATA A会員旅行会社30社の役員や社員、日本エコツーリズム協会、東北観光推進機構、JATA事務局、プレスなどの関係者が参加。環境省からも、自然環境局国立公園課の田中良典課長、東北地方環境事務所の小沢晴司所長ら6人が同行しています。



初日に行われた岩手県太平洋沿岸観光プレゼンテーション



（左から）環境省の田中良典課長、田野畑村の石原弘村長、JATA国内旅行推進委員会の高橋弘行副委員長



（左から）JATAの志村格理事長、東北地方環境事務所の小沢晴司所長、JATA社会貢献委員会の磯村克生副委員長

田野畑村の石原弘村長は、「外からの視点により、自分たちだけでは気づかないような地域の魅力を気づかせてもらい、それを地元にいるわれわれが磨いていくことが大事だ」と語り、旅行会社をはじめとする観光業界関係者への期待を示しています。

初日の夕方に田野畑村のホテルで開かれた意見交換会には、今回のプロジェクト参加者77人と岩手県や田野畑村などの自治体関係者や地元観光関係者ら34人の合わせて100人以上が出席し、観光を通じた復興支援や三陸における観光資源の魅力発掘や発信などについて、活発な議論が交わされました。

〈意見交換会〉 大きかった観光業界への地元の期待

に突き出た弁天崎灯台を目指す約60分のコースを、参加者らが地元ガイドの案内で歩きました。短い距離ながら起伏もある本格的なトレッキングが楽しめるコースで、灯台のある弁天崎からは海を見下ろす絶景を満喫することもできます。地元の関係者も推奨する地域の貴重な観光資源です。



100人以上が出席した意見交換会

今回のプロジェクトでは、三陸DMOセンターと久慈広域観光協議会によるプレゼンテーションや地元観光関係者との意見交換会などを通じて、視察エリアにおける観光魅力への理解を深めることができました。意見交換会での交歓風景は、「JATAの道プロジェクト」を通じて地元との絆が年々深まっていくことを実感させてくれるようです。

〈田野畑村番屋エコツーリズム〉 ユニークな観光素材の発見も

坂巻JATA副会長は、「震災を風化させてはならず、復興に向けた取り組みを継続していくには地域と一体となることが不可欠であり、地元の皆さんと一緒に盛り上げていくことを約束する」と決意を表明しました。

プロジェクト2日目は、田野畑村「番屋エコツーリズム」の中核ともなっている机浜番屋群をベースにした2つのプログラム「サツパ船の乗船」「塩づくり」から、参加者各自が選択して体験を行いました。番屋は漁

復興支援への道 みちのく潮風トレイルを歩く



ハイベ海岸に打ち上げられた津波の威力を示す「津波石」



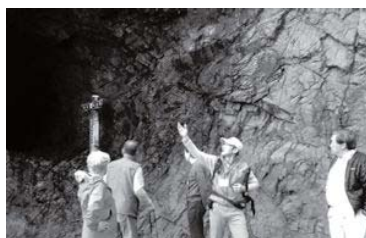
体験ウォーキングのコースには「過去の津波浸水区域」を示す掲示板も



オリジナル商品を販売する三陸鉄道の乗務員



田野畑村の机浜番屋群の一つである「塩づくり番屋」



北山浜にあるトンネル



弁天崎ウォークでガイドの説明を受ける参加者ら



洋上から三陸海岸の断崖を眺望できるサツパ船

師の作業場や漁具置き場など漁の拠点で、机浜番屋群は「未来に残したい漁業漁村の歴史文化財百選」にも入っています。東日本大震災時に発生した津波によって、机浜の番屋は全て流されてしまいました。2014年12月に再建されました。

サツパ船アドベンチャーズは、地元の漁師が操船する小型漁船に乗り込んで、洋上から三陸海岸の断崖を眺望できるプログラムで、水しぶきを体感しながら岸壁を間近に見学することが出来ます。参加者からは、「前日の遊覧船とは異

なる臨場感の伴うユニークな内容で、興味深い」といった感想も聞かれました。

「絶景体験ウォーキング」 太平洋と森林浴も楽しめるコース

2日目の体験ウォーキングは、太平洋のダイナミックな景観を楽しめる北山崎展望台から北山浜までの約3.5キロの行程で実施され、参加者らは眼下に広がる海を臨みながら森林浴も楽しめるという三陸ならではのコースを満喫しました。

アワビやホヤといった海産物が豊富な北山浜では、集めた昆布を背負う漁師にも遭遇し、太平洋のダイナミックな景観だけでなく、地元の生活が伺い知られる貴重な場所であることも印象づけられました。

参加者の声

復興支援の重要性を再認識

今回のプロジェクトでは、「北山崎」や「三陸鉄道」といったすでにツアーなどにも組み込まれている観光素材にもふれる一方で、塩害によって立ち枯れた木々や津波で打ち上げられた岩石なども地元ガイドに案内され、震災の恐ろしさや津波の脅威なども実感させられました。

参加者からは、「JATAによる震災復興の取り組みである『みちのく潮風トレイル』の認知度を高め、沢山の方に来ていただくためにも、JATAや環境省、旅行会社、地元関係者が一体となって該当エリアをめぐりながら意見交換を行う『JATAの道』はとても貴重な機会だと感じた」「1泊2日で効率的に三陸各所を見学し、商品造成の上で大変参考になった」「継続的に復興を後押ししていくことが必要であると実感できた」といった声が寄せられ、プロジェクトを通じて観光による震災復興が図られることの意義も確認されています。

また、プロジェクトの実施について、「観光素材の活用方法をテーマとしたワークショップやグループディスカッションもあれば、旅行会社・自治体・施設などの関係者が新たな発見も得られ、より有意義な研修になる」という指摘もありました。

JATAとしては、今後もプロジェクトを通じて、地元との意見交換を行いながら、地域への理解を深め、旅行業界にしかできない復興支援に努めていく方針です。